

○ タ イ ト ル : 緩和ケアを学ぼう会 特別編2017  
研修会 in 山形鶴岡・三川

## アンケート

- 日 時 : 2017年10月31日(火)18:30~20:45 (開場18:00)
- 会 場 : 鶴岡市立荘内病院 3階講堂  
山形県鶴岡市泉町4-20
- 対 象 : 鶴岡・三川地域の医療・介護・福祉・行政従事者、がん患者さんの療養支援に関わっている方。
- 開 催 概 要 : がんを患った方とそのご家族の希望に沿った療養を実現できる地域づくりのためには、医療・介護・福祉・行政の幅広い職種がお互いを理解し合い、患者さんやご家族、ご遺族の思いを大切にしながら協働していくことが重要です。山形県鶴岡・三川地域の在宅療養を支える専門職が一堂に会し、「がん患者さんが希望する場所で最期まで過ごすことのできる仕組みづくり」のさらなる進歩のために、療養する患者さんとご家族を支える情報の共有と連携の重要性について話し合います。

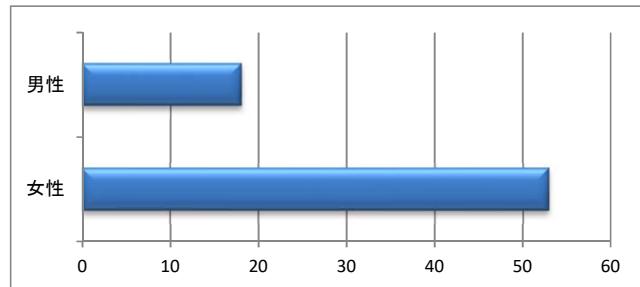
○ 参 加 者 数 : 83名

<内訳>	
医師	7名
歯科医師	1名
研修医	1名
介護員	8名
介護福祉士	5名
介護支援専門員	16名
看護師	24名
管理栄養士	2名
作業療法士	3名
理学療法士	2名
事務	4名
社会福祉士	3名
保健師	3名
薬剤師	4名

○ アンケート回収数 : 71

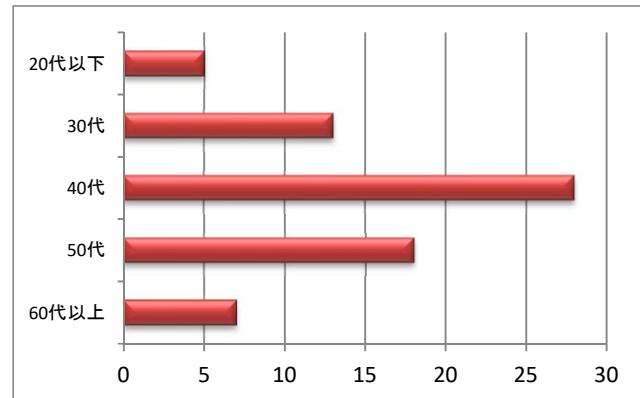
■性別を教えてください。

	回答数	比率
男性	18	25.4%
女性	53	74.6%
合計	71	100.0%



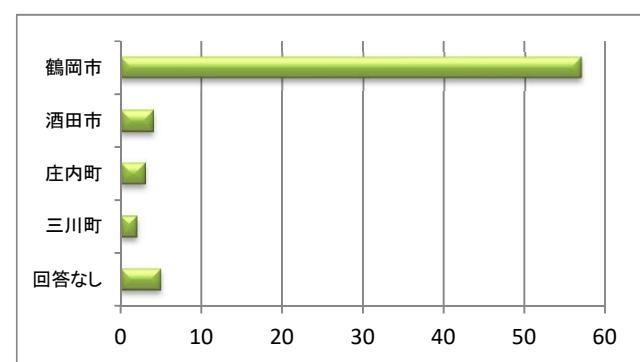
■年代をお選びください。

	回答数	比率
20代以下	5	7.0%
30代	13	18.3%
40代	28	39.4%
50代	18	25.4%
60代以上	7	9.9%
合計	71	100.0%



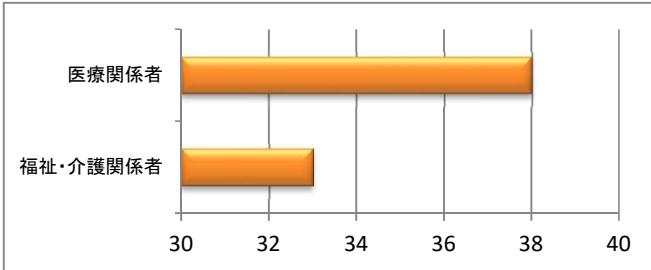
■お住まいの市町村を教えてください。

	回答数	比率
鶴岡市	57	80.3%
酒田市	4	5.6%
庄内町	3	4.2%
三川町	2	2.8%
回答なし	5	7.0%
合計	71	100.0%



■職種をお聞かせ下さい。

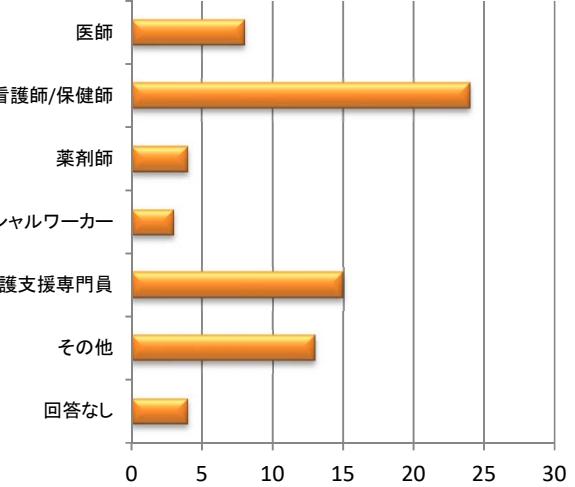
	回答数	比率
医療関係者	38	53.5%
福祉・介護関係者	33	46.5%
合計	71	100.0%



■上記で医療関係者および福祉・介護関係者に チェックされた方にお尋ねします。

職種・専門分野をお聞かせください。

	回答数	比率
医師	8	11.3%
看護師/保健師	24	33.8%
薬剤師	4	5.6%
ソーシャルワーカー	3	4.2%
介護支援専門員	15	21.1%
その他	13	18.3%
回答なし	4	5.6%
回答者数	71	100.0%



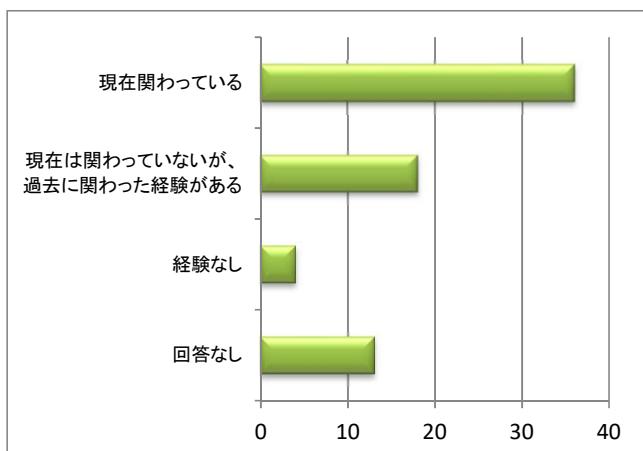
職種・専門分野で「その他」とご回答の記入内容

	回答数
介護福祉士	4
管理栄養士	1
作業療法士	3
訪問介護	3
理学療法士	1

がん患者さんやご家族等に対する相談支援に

関わったご経験をお聞かせください。

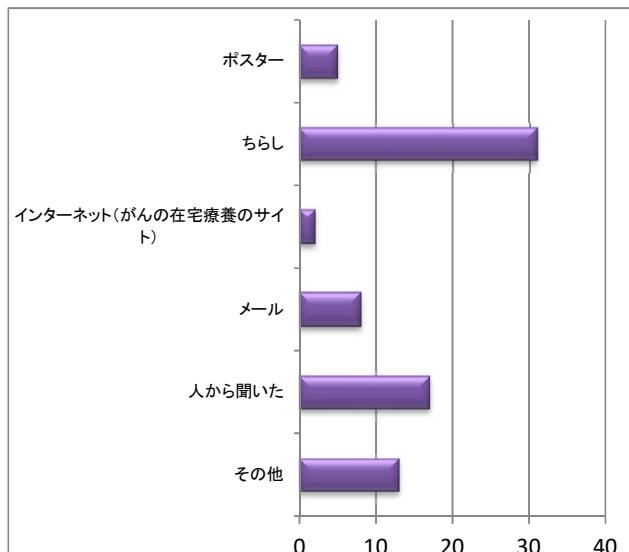
	回答数	比率
現在関わっている	36	50.7%
現在は関わっていないが、過去に関わった経験がある	18	25.4%
経験なし	4	5.6%
回答なし	13	18.3%
合計	71	100.0%



■本日の研修会をどこで知りましたか。

	回答数	比率
ポスター	5	7.0%
ちらし	31	43.7%
インターネット(がんの在宅療養のサイト)	2	2.8%
メール	8	11.3%
人から聞いた	17	23.9%
その他	13	18.3%
回答者数	71	
回答数	76	

※上記の比率は回答者数に対する比率です。



■「人から聞いた」とご回答の具体的な記入内容

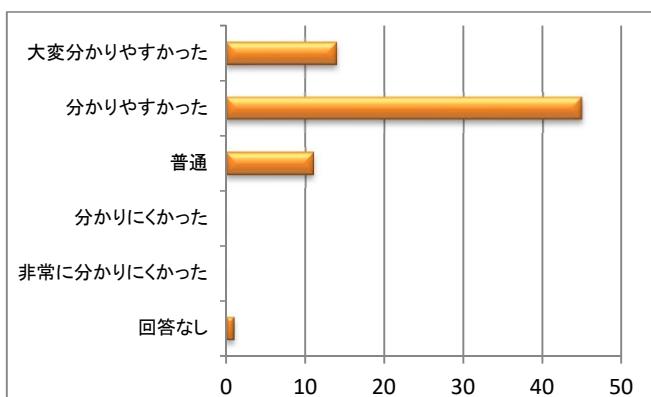
	回答数
和泉先生	5
病院の関係者	3
スタッフ	2
知人・友人	1
その他	2

■「その他」とご回答の具体的な記入内容

	回答数
庄内プロジェクト	2
職場	2
facebook	1
医師会	1
院内のおしらせ	1
緩和ケア研修会	1
主催者	1
前回の学ぼう会	1

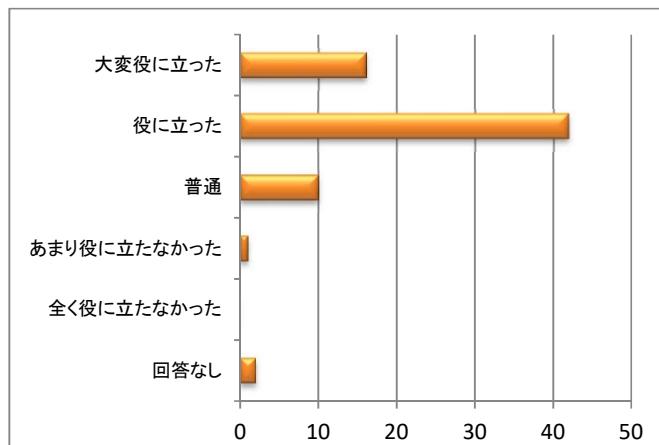
研修会の「内容」は分かりやすかったですか。

	回答数	比率
大変分かりやすかった	14	19.7%
分かりやすかった	45	63.4%
普通	11	15.5%
分かりにくかった	0	0.0%
非常に分かりにくかった	0	0.0%
回答なし	1	1.4%
合計	71	100.0%



研修会の「内容」は役に立ちましたか。

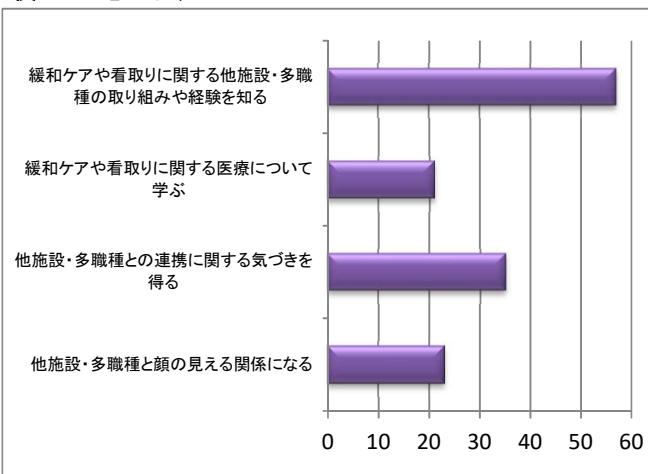
	回答数	比率
大変役に立った	16	22.5%
役に立った	42	59.2%
普通	10	14.1%
あまり役に立たなかった	1	1.4%
全く役に立たなかった	0	0.0%
回答なし	2	2.8%
合計	71	100.0%



「緩和ケアを学ぼう会・特別編」は、あなたにとってどのように役立つと思いますか？

	回答数	比率
緩和ケアや看取りに関する他施設・多職種の取り組みや経験を知る	57	80.3%
緩和ケアや看取りに関する医療について学ぶ	21	29.6%
他施設・多職種との連携に関する気づきを得る	35	49.3%
他施設・多職種と顔の見える関係になる	23	32.4%
回答者数	71	
回答数	136	

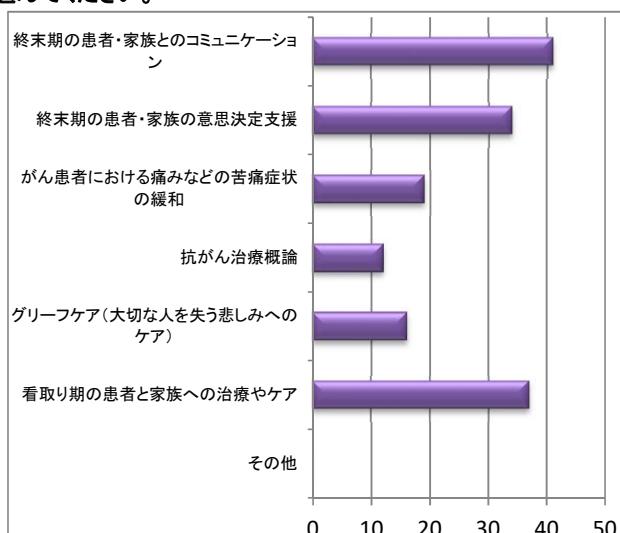
※上記の比率は回答者数に対する比率です。



「緩和ケアを学ぼう会」の講義内容について、希望する内容を選んでください。

	回答数	比率
終末期の患者・家族とのコミュニケーション	41	57.7%
終末期の患者・家族の意思決定支援	34	47.9%
がん患者における痛みなどの苦痛症状の緩和	19	26.8%
抗がん治療概論	12	16.9%
グリーフケア(大切な人を失う悲しみへのケア)	16	22.5%
看取り期の患者と家族への治療やケア	37	52.1%
その他	0	0.0%
回答者数	71	
回答数	159	

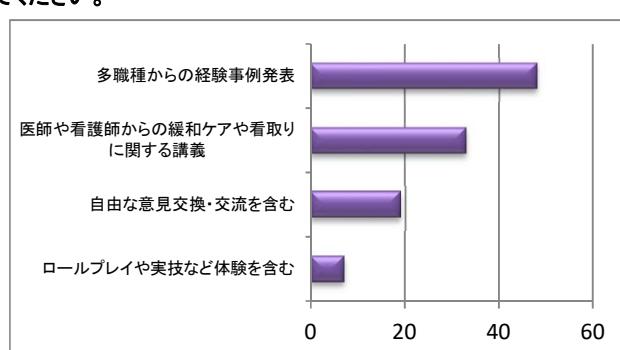
※上記の比率は回答者数に対する比率です。



「緩和ケアを学ぼう会」の形式について、希望する内容を選んでください。

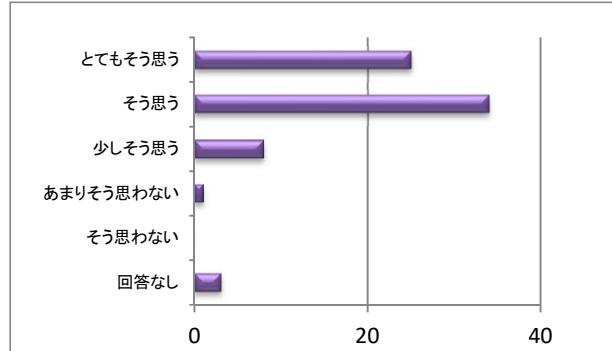
	回答数	比率
多職種からの経験事例発表	48	67.6%
医師や看護師からの緩和ケアや看取りに関する講義	33	46.5%
自由な意見交換・交流を含む	19	26.8%
ロールプレイや実技など体験を含む	7	9.9%
回答者数	71	
回答数	107	

※上記の比率は回答者数に対する比率です。



今後も参加したいと思いますか？

	回答数	比率
とてもそう思う	25	35.2%
そう思う	34	47.9%
少しそう思う	8	11.3%
あまりそう思わない	1	1.4%
そう思わない	0	0.0%
回答なし	3	4.2%
回答者数	71	100.0%



## 【ご意見・ご感想】

講義がもう少し長くても良いかと思った。

どの先生のお話も大変勉強になりました。グループワークは特に新しい考え方を知ることができ、今後、頑張る力をいたしました。

緩和ケアを学び、いろいろな意見を聞くことができて良かったと思いました。

地域の多職種の方と話す機会ができてうれしかった。

グループのバランス(構成)で話の内容がもっと深まるかと思う。時間があれば5、6人がよいかな。

講演で学びを深めて、その後グループワークで意見交換ができて良かったです。

ホームホスピスの存在。とてもいいなと感じました。

貴重なお話を拝聴出来てとてもよかったです。もっと学びたいと思いました。

異常現象である「病気」自然現象である「死」は別に考えるというお話はなるほどと思いました。死生観について考える、また別の視点について勉強させていただきました。

実際の緩和ケアに仕事で関わったことはまだないのですが、患者さんを尊重したケアと家族との関わりという点では、普段の看護でも通じるものを感じました。

ホームホスピスのような看取りの場は素敵と思いました。地域なりにそれぞれの立場でできることを継続していくこと、信頼して協力し合える間柄を作っていく事は大切にしていきたいです。継続していくためにどうすればよいかは課題と思いました。患者さん家族と人生の最期について自然に話し合えるようになれば良いのですが、タイミングは悩みです。

ホームホスピスという取り組みははじめて知りました。日頃の業務の中でも、病院では希望に添えないけれど、家に帰れない方に出会うこともあります、一つの選択肢としてあればよいと思いました。

もう少し話が聞けたら良かったです。短い時間でまとめられていたので良かったのですが…。とても勉強になりました。

ホームホスピスについて、初めて知り、看取りについて深く学び考えさせられる内容でした。

地域の方と意見交換が出来て良かった。

ホームホスピスの話はとても感動した。どう職員を育ててきたのか知りたいと思った。他の方の意見を多く聞くことができ、とても良かった。看取りに対する考え方があと参考になった。

ホームホスピスとはあまり聞いたことがなかった。ともに暮らし、ともに生きる。普通ではできるようで、簡単なものではない。家族でない人と家族以上に時間を過ごせることは素晴らしいと思う。

がん患者の思いと現状。どこまで本人を尊重できるか、以前より連携が良くなっている。

いろんな職種の方がいらっしゃってとても学びが多い研修でした。

死や看取りについて深く考えさせられた研修会でした。特に河原先生の価値判断についての話はとても関心がもてました。死はいつかおとずれることだと思いますが、こわいという考えは自分の中で変わらない気がします。こわいから、不安だから、いろいろ備えたり予防したり、日々、一生懸命生きていける気がします。ただ、もし末期になった場合、緩和ケアがあるから死へのこわさは軽減されるんだろうなと思える安心感はあります。

多職種・地域の方と関わることで、連携を深めるきっかけとなり良かったです。

ホームホスピスというのをはじめて知りました。医療者がいないのに、医療の介入が必要な方も生活しているとの事でした。ヘルパーさんやスタッフのお手伝いで、元々が知らない人どうし(他人)が、家族のように過ごしている温かさを感じました。とても参考になりました。

緩和ケアそのものの経験が少なく、勉強中です。

診療所の関係で終末期の患者さんに接触する機会はあまりなく、皆様方との考え方についていくのが難しいと感じました。

ホームホスピスの講演が良かった。次回も開催したい。

立場の違う看護職同士でお話できて、学びの多い時間でした。参加してよかったです。

ホームホスピスを初めて知ることができた。今は施設入居を希望する人も多くなっていると感じるが、ホームホスピスまではいかなくても、施設看取りを考える上でも参考になる点があつたように思う。

はじめて聞くホームホスピスの実態を伺うことができました。利用する方と職員が家族のように接することができ、すばらしいと思った。

それぞれの先生方のお話。短い時間ではもったいなくらいすばらしかったです。

「家でなくなる」という意味を考えさせられた。

大変ためになった。

”ホームホスピス”という言葉をはじめて聞き、すばらしい取り組みをしていると思った。理解していくてもなかなか介入が難しいと思う。

鶴岡にもホームホスピスのような施設が増えればと思いました。

ホームホスピス、看護師さんがいなくても成り立つんだと新たな発見です。よく考えてみると、連携がうまくいっていれば大丈夫なんだ、スタッフの方の意識の高さを尊敬します。河原先生のお話も奥が深かったと思います。「人は貸し借りは好まない」(精神的に)。もっともな事だと思います。よく私達が支援・援助とか言っていますが、相手の気持ちにあわせての支援・表現方法を自分なりに考えていきたいと思いました。ありがとうございました。

河原先生の講演の中で「死」は誰にでも訪れるものという考え方をお聞きしました。私もそう思うのですが、日本人の固定観念なのか「死」をタブー視する傾向が大きいということなど、冷静に捉えていただいていることを感じ、見習いたいと思いました。

ホームホスピスを初めて知りました。ホスピスは医療職種がするものと疑わずにいたことにカルチャーショックを受けました。スライドやお話に涙ぐみました。死は生理現象であり、避けられないもの。医療の限界としてではなく、穏やかに死を迎える一つに、自宅もあり、集合住宅(ホームホスピス)もあること。「最期を選ぶ」大切さ、むしろ責任を感じました。

9.本日の研修会でもっと詳しく知りたかった点や議論したかった点、お感じになったことなどご自由にお書きください。

ディスカッションは3人グループだと時間がやや余った。

河原先生のお話で、大変分かりやすかったのですが、日々の活動の状況もお聞きしたかったと感じました。

施設の「なま」の状況がもっといろいろ明らかになると、いろいろ考えることができるかも。

あなたでよかった、この地域でよかったと思ってもらえるケアがしたいと思いました。

にじいろのいえに関わっている医療職が、どのように寄り添っているのか？距離感なども知りたいと思いました。

地域で今回のテーマについて話し合うことは、地域の看取りの力につながっていく大切な活動だと思いました。

にじいろのいえのケースをもっと聞いてみたかったです。

ホームホスピスでの職種間連携、体制、立ち上げからの苦労など在宅特化型診療所の活動・体制、苦労。

いろいろな職種の方と話せて良かった。もう少し人数が多いほうがよいかと思いました。

今後の展望について、もっと詳しく知りたかったです。

正直、参加してよかった。

ホームホスピスについて初めて知り、どのような連携をされているのか気になりました。

普段接することのない職種や施設の方とグループワークできて、地域の取り組みを知ることができた。

ホームホスピスのお話は大変参考になりました。もっと、お話を聞かせて頂きたかったです。グループワークはもう少し人数が多いほうが意見も出しやすいのかなと思いました。

ホスピスでの様子、看取りの現場を少しだけ知れたような気がします。ホスピスが看取りの場所の一つなんだなと思いました。一番重要なのは、やはり本人の意志だと思いますが、家庭内のさまざまな事情で難しい状況になることもあると思います。その時にさまざまな専門職に意見をもらったり情報をもらったりして、その人にとって最善の方法を選択出来たら良いと思いました。

ホームホスピスについて詳しく知りたい。鶴岡にもホームホスピスや、ホスピス(分院)、緩和ケア病棟が出来ればよいと思う。

死に対する市民への啓発・教育。意志決定について、家族で共有する。

ホームホスピスでの多職種との連携(具体的な)を詳しく知りたかった。

ホームホスピスでの関わり方や看取り方など、もっと聞きたかった。

ヘルパーの方々が介護現場で出入りが激しいと聞いています。同じ目標を持った人達が集っているので、長続きするのでしょうか？身寄りのない(保証人のない人)の転院や施設入所が難しい状態です。その様な方の受け入れもしていますか？

ホームホスピスについて、漠然としていたイメージが、今回のご講演を聞いて、とてもよく分かり、このような場(家)がこれから社会には必要とされると強く感じた。

必ず迎える「死」に対しての考え方が少し変わったような気がする。私事で「ひょっとしたら皮膚がんかもしれない」と診断されて、がんの人の気持ちを考えることができた。もしも「死」を宣告された時に、自分は何を思うのだろうということを念頭において、ケアマネジメントしたいと思いました。今日の講義でますます「精神論」を考えないといけないと思った。ただその「精神論」は千差万別で難しい問題だと思います。

ホームホスピスの当地域での実現可能性について。

ホームホスピスについて、全国でどのくらいあるのか。

ホームホスピスのことをもっと知りたい。誰でも運営できる、地域包括医療チームがいれば。今後の緩和ケアのあり方になるだろう「互助」「地域」の具体例に思います。蘆野DrのACP講演とのつながりあり、とても勉強になりました。

10. 「地域における緩和ケアと療養支援情報 普及と活用プロジェクト」についてお尋ねします。プロジェクトでは、「がん患者さんとご家族のための在宅療養ガイド」の地域への普及と活用を目指しています。在宅療養ガイドをご覧になった感想、療養支援に必要な情報について、ご意見やご提案をお寄せください。

用語の解説が使いやすい。

見やすく、わかりやすく、書かれていると思います。早速、職場でも紹介したいと思いました。

よくできた中身でいい本ですが、確かに文字が多いかな。余裕がある時にはよいかしらと思う。ダイジェスト版もよし。

詳しい情報が多く、これから活用したいと思います。

地域で普及すると、在宅療養に対する不安解消や関わりがスタンダードになり、大変良いと思います。

どう過ごすかを決めるまでの家族との関わり、話し合いが特に重要なのではないかと思うこの頃なので、こういった冊子に目を通してもらいうことができれば、当事者、家族の見方、考え方も広く多角的になるかもしれませんと思いました。

主に看取りに向けて本人と家族が話し合うことを取り上げているものは少ないので注目点です。文字は多くて小さいな、という印象がありますが関心のある方は読まれるよう思います。

「初級編」のような感じで、広く配布してはどうかと思います。簡易版はとても良いと思います。

早い段階での活用が必要と感じます。CMなどでも共生がうたわれ、がんに対するイメージや認識も変化しているものを感じています。日進月歩で医療や治療方法も大きく変わって来ていると感じています。非がんの方などにも普及して行けばいいと思います。

療養から看取り、症状のことからケアまで、とても分かりやすく、家族にも伝えやすい内容だと思いました。イラストも多く、全体的にみやすいです。

読みやすく、分かりやすいと思いました。

医療の知識のない、患者家族でもわかりやすく、今後の病状や過ごし方についてイメージしやすいと思う。

ガイドの中には家族が介護の際にどのようにやれば良いかということがあり、役立つ情報があると思いました。気持ちのよりどころになりそうなエピソードも書いてあると思いました。

訪問歯科医がチームの一員として位置づけされて安心しました。

緩和ケア、がんの治療における金銭面についても情報がほしいと思った。

もう少しじっくり読んでから回答したい。